

又の負債を償却して行々之為には、あの老朽車を破使しなればなりません
 又の結算は債権の完結しない以前に事としての生命が統括して終りのてりませ
 今回私達(要するに生存権)の確保について、相互の福利幸福を希ふ。余り誠心誠意が
 り必之費をわたりませ

論じて行けなから喰って行けの様に思ひ、一致協力温情的に歩調を整えて行
 かうてはなにかと云ふ程踏破進歩の要を拒絶の強硬の止むを得ない帰場なのであります
 復三年も使った車輪が、軽車輪よりも高価に付け、芝浦工場に放擲され大団圓の
 自動車を虎の門高松洋行の山崎の強硬を種々電氣自動車も同じ敗産にかえられ
 度と取崩して兵士のてあります

次の水災を継続して行け、会社も私達も標立協賛も共働水の運命に刻為り事
 明瞭なてあります。故に私達。生計の保たせが、スベレ使用の割増とか、社費軽減等
 をにょつて一日も早く償済なる車輪に更新し以て新しき組織の下に理想の在
 るとしたら、使用がわって済んだ重洋一を西に獲得する事は明瞭なてあります。
 此の危急なる社、標立協賛の正しさを批判する下は公平を私奴と申す。察下されて精神
 的の振興を賜り以て相互永遠の福利幸福の爲に務め申す。後下をん事を慮及て止まない治策
 であります

昭和二年十月廿七日

實用自動車 相互同志会

(別記)



(原文のまゝ)

一 以後車輪修理ノ場合スハ部分品購入ノ場合ハ本団ニ来
 ラレタシ。

一 本社ニ行ク必要アリ有ツタラ本部ニ来ラレタシ。
 自治管理申ハ本社参リノ必要ナシ。

一 本社参リスル奴ハ本社ニ行カスニ本部参リシ口。
 一 本社ノ内外道修ニハ監視人カホ七日カラ付ケタゾ。

一 正義ヲ破ル及逆者ノ末路ヲ見ヨ!!! 悲惨サヲ!!!
 一九二七、一〇、二六日夜

實用同志會 争議本部